

# 将来ビジョン 「国際化」



- グローバル人材養成プログラムの整備充実  
(南アジア・ASEANを中心とした地域における海外  
オフィス・共同実験室の展開)
- 日本人学生と留学生の混在型教育の充実
- 海外協定大学とのJoint Degreeプログラム開始
- 多文化共生型による国際教養コースの設置
- 教員海外研修、事務職員海外実務研修の強化
- 留学生の就学・就職支援（インターンシップ）強化（東海コ  
ンソーシアム化）
- 留学生ネットワークの整備
- 諸団体、他大学とのグローバル事業共同展開



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立  
大学機構



岐阜大学

## 杉原千畝記念館 館長特別講演会 「在カウナス領事代理 杉原千畝に学ぶ」を開催

### 【概要】

令和3年5月31日(月)、本学にて、杉原千畝記念館 国枝大索館長をお招きし、特別講演会「杉原千畝に学ぶ」を開催しました。本講演会は、岐阜大学全学共通教育科目「異文化論（リトアニア学）」に関連して開催されたもので、学生が本科目を対面で受講している様子をZoom Webinarによりリアルタイムで配信しました。

講演会は、植松美彦岐阜大学グローバル推進機構長による挨拶及び毛利哲也工学部准教授によるリトアニア学の講義についての概要説明の後、国枝館長による講演があり、岐阜県八百津町出身で、在リトアニア・カウナス領事代理を務めた杉原千畝氏について、氏の領事代理在任時のユダヤ人を救うための行動を、当時の世界情勢と絡め詳細にご説明いただきました。

講演会には、受講生40名、オンライン参加者49名の計89名が参加し、熱心に講演を聞き入りました。受講学生からは、当時のリトアニアの政治的分断を初めて知った、杉原氏の勇気と行動力にあふれた人道支援に改めて感銘を受けた、といった感想が聞かれました。

本学は今後もリトアニアについて学ぶ機会を設け、同国への理解を深めていきます。



オンライン配信の様子



講演会場の様子

### 【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2021/6/1	岐阜	命のビザ 広がり知って「千畝氏以外の領事も尽力」 岐阜大で記念館館長が講演 ～ 工学部1年 祖父江祐太さん ～
2021/6/1	中日	「命のビザ」千畝の緊急措置 当時の世界情勢踏まえ語る 岐阜大で記念館・国枝館長 ～ 工学部1年 祖父江祐太さん ～

## 2021サマースクール（受入）をオンラインで開講

### 【概要】

本学グローバル推進機構は、令和3年6月23日（水）から、サマースクール（受入）をオンラインで開講しました。ノーザンケンタッキー大学（アメリカ）、マレーシア国民大学（マレーシア）から合計5名の学生が参加し、これから7月7日（水）までの2週間、オンラインで日本語学習に励みます。

サマースクール（受入）は、本学の学術交流協定大学の学生を対象に毎年開講している留学生短期受入プログラムです。昨年度はCOVID-19の影響で中止となりましたが、今年度は通算33回目にして初めてのオンライン開催となります。サマースクール参加学生らは、日本語学習に加え、本学のボランティア学生と文化体験企画等で交流する中で、実際の日本語コミュニケーションにもチャレンジします。また、郡上八幡国際友好協会の協力のもと、郡上市立相生小学校の児童との交流や、郡上市の伝統的な街並みや郡上踊り、工芸品等を映像で紹介する伝統文化体験の時間も設けられています。

6月23日（水）は、開講式とガイダンス、4学部から参加したアシスタント学生による大学紹介を行いました。サマースクール参加学生らは、初日ならではの緊張感はあるものの、本学学生と交流する中で少しずつ表情が柔らかくなり、英語等を交えつつ積極的に日本語での会話に励みました。2週間という例年より短い期間の実施にはなりますが、実際の距離は遠く離れていても、オンラインでの交流を重ねる中で学生達の心の距離がより縮まることを期待しています。



ガイダンスの様子



開講式での記念撮影

# ジョイント・ディグリープログラム 国際連携食品科学技術専攻（修士課程）の 第1期生（インド工科大学グワハティ校入学）が修了

## 【概要】

2021年7月16日（金）、岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻（修士課程）のインド工科大学グワハティ校を主大学として入学した第1期生が国際共同学位を取得しました。

本専攻は、本学において2019年度にインド工科大学グワハティ校（IITG）及びマレーシア国民大学と共同で開設した4つの国際連携専攻(ジョイント・ディグリープログラム)の1つです。

学位伝達式はオンラインで執り行われ、本専攻1期生となるIITG入学の4名の修了生に学位記が授与されました。本学からは森脇久隆学長が祝辞のビデオメッセージを寄せられ、修了生たちが学位取得までに積み重ねてきた努力への賞賛とともに、将来の日印産業振興における修了生への期待を述べられました。

また、本卒業式の様子は現地新聞やオンラインニュースに多数取り上げられ、インドにおける本専攻の注目度の高さが窺えます。

तेईसवाँ दीक्षांत समारोह Twenty Third Convocation			
SEMESTER EXCHANGE/RESEARCH INTERNSHIPS WITH PARTNER UNIVERSITIES (OUTBOUND)			
Ms. Thongam Debika Devi	Energy	General Exchange Programme (GESR)	Kyoto University, Japan
Mr. Jishnu Choudhury	Civil	Summer Internship	Ecole Centrale de Nantes, France
Mr. Mayank Sharma	Chemical	International Joint Master Degree in Food Science & Technology	Gifu University, Japan
Mr. Sanjay Raghuvanshi	Chemical	International Joint Master Degree in Food Science & Technology	Gifu University, Japan
Mr. Rupesh Kumar	Chemical	International Joint Master Degree in Food Science & Technology	Gifu University, Japan
Ms. Priyanka Vilas Korgaonkar	Chemical	International Joint Master Degree in Food Science & Technology	Gifu University, Japan
Mr. Vinod Gajmer	Civil	Summer Internship	Carema Mediterranean, Aix-en-Provence, France

修了生4名の氏名が掲載されたスクリーン



森脇学長の祝辞

## インド工科大学グワハティ校と合同ウェビナーを開催

### 【概要】

令和3年10月23日（土）、本学はインド工科大学グワハティ校（IITG）と合同ウェビナー「Recent Research Trends in Food Science and Technology（食品科学技術研究の新潮流）」を開催しました。IITGは、本学の工学研究科（博士課程）、農学研究科（博士課程）ならびに自然科学技術研究科（修士課程）と国際共同学位プログラム（ジョイント・ディグリープログラム、詳細は [こちら](#)）を設置している海外協定大学の一つです。同プログラムとの相乗効果も念頭に開催された本ウェビナーは昨年につき2回目となり、国連食糧農業機関の創設を記念し定められた世界食糧デー（10月16日）に合わせて行われました。

ウェビナーでは6名の講演者によって食品科学技術における学術的および応用的な最新動向が紹介されました。本学からは、長岡利教授（応用生物科学部）が食品由来の新規コレステロール低下ペプチドに関する研究成果を、西津貴久教授（応用生物科学部）がSDGsの目標の1つである「飢餓をゼロに」への食品工学の役割と関連する研究成果について講演しました。他の講演者からは、環境に配慮した食品包装や代替肉の最前線などが紹介されました。ウェビナーには、日印の教員やジョイント・ディグリープログラム学生など約40名が参加し、啓発的な講演者の発表に対し活発な質疑が行われました。

本学は今後もジョイント・ディグリープログラムを基盤としたIITGとの交流を推進していきます。



講演の様子（長岡教授）

## 広西大学との農学系合同研究シンポジウムを オンラインで開催

### 【概要】

令和3年10月23日（土）、中国の広西大学との農学系合同研究シンポジウム「Guangxi University - Gifu University The 2nd Joint Research Symposium」をオンラインで開催しました。

本シンポジウムは、2019年度に広西大学農学院で開催された第1回に続き、両大学の学術交流を促進することを目指しています。今回は両大学から計6名の教員が研究発表を行い、留学説明会や意見交換の機会も設けられました。

本学からは、光永徹 応用生物科学部長による開会挨拶に続き、3名の教員（今村彰宏 准教授、山田邦夫 教授、大西健夫 准教授 ※発表順）が自身の研究内容について発表しました。また、研究発表教員の他にも6名の教員と5名の学生がオンライン及び配信会場（応用生物科学部101多目的ホール）から対面で参加し、広西大学の配信会場には200名を超える参加者が集まりました。研究発表後は、修士ダブルディグリープログラム（DDP）の説明及び同プログラムで本学へ留学中の学生1名による報告を行いました。広西大学の学生から質問やコメントもあり、留学への興味が伺えました。

今回は海外渡航が困難な状況下のため、オンラインでの開催となりましたが、両大学の今後の研究・学生交流の可能性を確認する充実した機会となりました。今回の開催に協力いただいた広西大学関係者へ感謝申し上げます。今後もこうした取り組みを継続して実施していきます。



応用生物科学部長による開会挨拶



応用生物科学部教員による研究報告



会場の様子（画面上）



会場の様子（広西大学）

## 2021年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム 岐阜地区ワークショップを開催

### 【概要】

令和3年10月27日（水）、岐阜大学全学共通教育講義棟において、2021年度愛岐留学生就職支援コンソーシアム岐阜地区ワークショップを開催しました。

本ワークショップは、愛岐留学生就職支援コンソーシアムに参画している岐阜県内4機関（本学、岐阜県、岐阜県経営者協会、日本貿易振興機構（ジェトロ）岐阜貿易情報センター）の共催により例年開催しており、今年度で第4回目の実施となりました。

2部構成の第1部は、矢橋ホールディングス株式会社 Nguyen Thi Diep氏によるグローバル人材育成に関するセミナー、太平洋工業株式会社に就職した元留学生 申 鑫 氏から就職体験談のビデオメッセージを通じ、キャリアイメージを鮮明にしました。

続く第2部は、留学生が参加企業各社へ質問を投げかけて交流を図りました。留学生は、本ワークショップに向けて、事前に企業理念や事業内容について知識を深めており、今後の海外展開の状況、社内の教育システムの状況及び外国人の採用実績などの質疑応答を通じ、交流を行いました。

今年度もコロナ禍での開催となったことから、感染対策に留意して小規模での開催となりましたが、参加した留学生は、対面実施により様々な企業と交流できたこと、参加企業への関心が深まったこと、今後の就職活動に役立つ等、本ワークショップの満足度が高く、また、企業からは、企業に対して一生懸命話されている姿に感心した、もっと長く交流の時間を確保いただきたい等の意見が寄せられ、有意義なワークショップとなりました。



第1部 セミナーの様子



第2部 留学生と参加企業との交流の様子

## 連合農学研究科が「The 9<sup>th</sup> UGSAS-GU Symposium & Roundtable 2021」を開催

### 【概要】

岐阜大学大学院連合農学研究科（博士課程）は、令和3年11月10日（水）に南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム加盟校（日本を含む南部アジア地域9カ国20大学）（以下、IC-GU12という）による「The 9th IC-GU12 Roundtable Meeting」（第9回農学系博士教育国際連携円卓会議）（以下、ラウンドテーブルという）を、10日（水）・11日（木）に海外のアカデミアで活躍する本研究科修了生の若手研究者を中心とした生物・農学系シンポジウム「The 9th UGSAS-GU International Symposium on a Recent Progress in Forest Ecology and Management 2021」（以下、シンポジウムという）を本学連合農学大学院棟およびWeb会議のハイブリッドで開催しました。

10日のラウンドテーブルでは、加盟校のうち16大学のリエゾン教員等27名の出席のもと、各大学のオンライン講義の開催状況や事例、オンラインによる海外教員との教育連携についての総合討論が行われました。

10・11日のシンポジウムでは、本学連合大学院棟およびWeb会議のハイブリッド形式で、森林生態学と管理における最新の状況をテーマに花岡創森林研究・整備機構森林総合研究所材木育種センター北海道育種場育種課育種研究室長をはじめ国内外の研究者4名の基調講演及び研究者15名の研究発表が行われ、より深い研究討論を行いました。

11日午後から本学の流域水環境リーダー育成プログラムと共催にて、学生21名によるオンラインポスターセッションが行われ、優秀発表学生5名にポスター賞が授与されました。

シンポジウムでは最新の研究事情に触れることができ、またラウンドテーブルでは各大学の教育に関わる問題の解決のヒントを得ることができ、大変有意義な会議となりました。



ラウンドテーブルの様子



シンポジウムでの花岡講師（森林研究・整備機構）の基調講演



シンポジウム参加者（岐阜大学会場）  
集合写真



ポスターセッション受賞者（岐阜大学会場）  
集合写真

## 岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2021を開催

### 【概要】

令和3年12月9日（木）～10日（金），オンライン（Zoom）及び一部対面にて，岐阜ジョイント・ディグリーシンポジウム2021を開催しました。本年度で3回目となる本シンポジウムは，東海国立大学機構JDPシンポジウム（以下，THERS JDPシンポジウム）を東海国立大学機構が，学術セッション，産官学金連携セッションを岐阜大学グローバル推進機構が主催で開催しました。

松尾機構長からの開会挨拶の後，「ニューノーマル時代のジョイント・ディグリー～教育研究の国際化と地方創生～」をテーマとしたTHERS JDPシンポジウムでは，岸本文部科学省高等教育局高等教育国際戦略プロジェクトチームリーダーによる「ニューノーマル時代の国際教育交流」と題した基調講演が行われ，ジョイント・ディグリープログラム（以下，JDPという）のメリットと課題，今後の方向性等が，具体的事例と共に伝えられました。

講演後，植松岐阜大学グローバル推進機構長を座長に，岸本氏，一般社団法人中部経済連合会，立命館大学，名古屋大学及び岐阜大学とで，JDPが進める人材育成について，活発な意見交換がなされました。閉会にあたり森脇大学総括理事・副機構長から，JDPを含む国際連携教育への社会からの期待は高く，今後も関係機関との情報交換を密にするとともに，日本，ひいては世界の発展に寄与していきたい，また，全国大学JDP協議会は不可欠であり，広く参画をお願いしたい旨挨拶がありました。

学術セッションでは，「持続可能な地域開発；SDGsとその先に向けて」をテーマに，地域がそれぞれ持つ構想，地域開発計画や地域産業による環境に配慮したグリーンテクノロジーの事例などを共有し，参加者による意見交換が行われました。

産官学金連携セッションでは，「国際連携ジョイント・ディグリーを基軸とする地方創生」をテーマに，東海地域とJDP連携先の北東インド及びマレーシアを結ぶ地域創生及びSDGsとカーボンニュートラルに資する竹資源について，国内の産業界・金融関係者，行政関係者，大学関係者の間でパネルディスカッションが行われました。また，ブース展示では，東海地域の17の企業・機関が本学学生を対象に自社・機関の紹介を行うと共に，企業間での交流を深めました。



THERS JDPシンポジウムディスカッションの参加者



産官学金連携セッションブース展示の様子